

第6学年4組 社会科学習指導案

指導者 千葉市立小中台小学校 伊藤 文人

1 小単元名 明治の国づくりを進めた人々

2 小単元について

本小単元は、学習指導要領の内容（1）の「キ」について扱う。この内容は、幕末から明治の初めにかけて、黒船の来航、明治維新、文明開化などの歴史的事象を取り上げ、これらを具体的に調べることを通して、我が国は廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことが分かるようにすることをねらいとしている。

これまでの学習として、縄文時代の人たちはどのように生活してきたのか考えることから、日本の歴史について関心をもち、徐々に変わってくる生活の変化や制度について調べ、日本の国ができてきたことを学んだ。さらに、貴族や武士など人の身分がはっきり分けられながら、争いも次第に大きくなったことや、様々な人々によって文化が発展したことで今の日本の姿に近づいてきていることを理解してきた。

本学級の児童は、意欲的に歴史学習に対して取り組んできた。これまで、児童の意欲を高めるため、歴史の内容を劇のように児童に再現させたり、東大寺の大仏や水墨画を校庭や半紙に実際に書かせたりして少しでも体験的な活動を取り入れた。また、毎回の学習のまとめと一緒に学習の感想を書かせ、児童の感想から次時の学習問題や内容につなげるようにしてきた。また、その感想や歴史新聞作成においては、歴史事象と自分の生活をつなげることで関心が高まるように、現在の様子と比較するように声をかけて文章を書かせてきた。

本小単元では、児童には生活が想像しにくい武士の時代から、洋風の建物や衣服など大きく変化し、今の生活に近づいてきた明治の時代を、現在の生活の様子と重ね合わせながら学習することで、今の生活もつながってきた歴史の一部と実感させ、児童の関心を高めさせたい。その具体策として、新聞を資料として活用する。本校では、NIE 実践校の指定を受け、9月から NIE 教育を進めている。新聞を読むことで、現在の工業の発展は明治の様々な改革によるところが大きいと認識させたい。ただ、そのための犠牲もあることを忘れずに指導したい。また、明治から始まっていく外国との戦争についても現在の日本や世界の情勢と重ね合わせ、思考を深めさせたい。

以上のことから、日本の歴史に対して児童の学ぼうとする意欲や態度をさらに高めたい。また、現在では当たり前と感じている生活を、当たり前ではなく、様々なことから成り立っているということ、そして自分もその歴史の一員であることを感じ、自分のこれからの生活に歴史上の出来事や人物の考え方を生かせるようにしたい。そして、これからの社会の中で、選択を迫られるときがあっても、自分の考えを大事にして、判断をつけられるような児童を育てていきたい。

中心概念

明治維新では、外国に負けないように日本の国を強くしたり、人々が平等になるように制度を改革したりして、様々な人たちが努力し、現代の日本の姿に近づいた。 ⑦

まとめる

具体的知識

明治時代になって二、三十年の間に明治維新という大きな変化があった。 ①

黒船の来航以降、国内が混乱する。若い武士たちが江戸幕府を倒し、明治維新として新しい国づくりを進めた。 ②

明治政府は、廃藩置県を行い、大久保利通や木戸孝允らは、地租改正、殖産興業、徴兵令などの改革を行って、富国強兵を目指した。 ③ (本時)

西洋の制度や技術が導入され、文明開化として人々の生活や文化が変化し始めた。 ④

反乱から言論で主張する世の中になり、板垣退助と政府に不満をもつ人々による自由民権運動によって、国会開設となった。 ⑤

板垣退助や大隈重信は政党をつくって国会開設に備えた。伊藤博文による大日本帝国憲法が發布され、基本的な国の治め方が示された。 ⑥

現代の暮らしに生かされているものの多さを改めて確認し、自分もその歴史の一員であり、自分のこれからの生活に歴史上の出来事や人物の考え方を生かす。 ⑦

用語・語句

寺子屋 小学校 学制 明治維新

大久保利通 西郷隆盛 木戸孝允 ペリ
黒船来航 開国 日米和親条約 日米修好通
商条約 長州藩 薩摩藩 徳川慶喜 政権を
朝廷に返す 明治天皇 五箇条の御誓文

廃藩置県 大久保利通 木戸孝允
富国強兵 殖産興業 徴兵令 地租改正
民衆による一揆

福沢諭吉 岡倉天心 四民平等
西洋の制度や技術 文明開化

不満をもつ士族 西郷隆盛 西南戦争
板垣退助 自由民権運動 国会開設
秩父事件

板垣退助 大隈重信 政党
民権派の憲法草案 伊藤博文
大日本帝国憲法 天皇主権 選挙権

明治 現在の生活 自分 憲法
自由 生かす

問題解決的な →
学習の過程 つかむ

調べる

→
いかす

4 小単元の目標

- 明治時代にかかわる人物の働きや代表的な文化遺産を通して、我が国が欧米の文化を取り入れつつ諸改革を行い、近代化を進めたことがわかる。
- 歴史に生きる一員としての自覚を持ち、明治時代に生きた人物の願いや働き、文化遺産などを調べ、思考や判断したことを適切に表現することができる。

5 小単元の評価規準

評価の観点	評価規準
社会的事象への関心・意欲・態度	○社会的事象にかかわる人物の働きや代表的な文化遺産に関心をもち、進んで考え、調べようとしている。
社会的な思考・判断・表現	○江戸から明治の時代について、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。 ○人物の願いや働き、文化遺産の意味などについて思考や判断したことを、言語などで適切に表現している。
観察・資料活用の技能	○江戸から明治の時代について、文化財、地図や年表、その他の資料を活用して必要な情報を集めて読み取り、白地図や年表、作品などにまとめている。
社会的事象についての知識・理解	○我が国が欧米の文化を取り入れつつ、諸改革を行い、近代化を進めてきたことを理解している。

6 小単元の指導計画（9時間扱い）

過程	主な学習活動と内容	時数
つかむ	<p>①明治時代に始まった学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代の寺子屋の様子と明治時代の小学校の様子を描いた絵図を見て、気づいたことを話し合う。 ・明治時代になって 20~30 年の間に社会に大きな変化があったことに気づき、明治維新に関心をもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>小単元全体の学習問題</p> <p>明治維新では、どのような人たちが、どのような願いや思いで、国のしくみや社会を変えていったのだろうか。</p> </div>	1
調べる	<p>②若い武士たちが幕府を倒す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒船の来航から、国内が混乱して若い武士たちが江戸幕府を倒すまでの様子について調べる。 ・薩摩の大久保利通や西郷隆盛、長州の木戸孝允などの下級武士が、明治維新を進めたことを理解する。 	1

調べる	<p>③大久保利通と富国強兵</p> <ul style="list-style-type: none"> ○欧米に学んだ大久保利通らが、どのような国づくりを目指したのかを考え、予想したことを話し合う。 ○明治政府の政策について、政府側と民衆側に分かれて、それぞれの思いを考えたり、調べたりして、自分の思いとしてまとめる。 ○明治政府のそれぞれの政策ごとに分かれて、それぞれの思いをディスカッションし、現在の自分の生活と比較する。 ・欧米の進んだ様子を見て、江戸幕府が倒れた直後の日本には、どのようなことが必要か考え、話し合う。 ・富国強兵の内容として、主に、殖産興業、徴兵令、地租改正を取り上げ、それぞれどのように行ったか理解する。 ・殖産興業では、富岡製糸場の様子を知り、世界遺産の価値を考える。 ・重い税や徴兵令などに、民衆から不満が出て、苦しい生活であることを、現代の生活と比較しながら理解する。 	<p>3 3 3 (本時)</p>
	<p>④明治の新しい世の中</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日本橋近くの絵図」を見て、気づいたことを話し合う。 ・文明開化について調べ、わかったことや考えたことを話し合い、文明開化によって生活が変化し始めたことを理解する。 	1
	<p>⑤板垣退助と自由民権運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政府の改革に不満をもつ人々の行動について調べる。 ・反乱から言論で主張する世の中が変わってからの板垣退助と自由民権運動について調べ、国会開設へと続くことを理解する。 	1
	<p>⑥伊藤博文と国会開設、大日本帝国憲法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地の憲法案や伊藤博文がつくった憲法について調べ、その内容について話し合う。 ・議会と選挙制度について調べる。 	1
まとめる	<p>⑦学習のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習を振り返って、歴史新聞を作成する。 ・明治時代の生活や制度を、現代のものと比較し、自分の意見をまとめる。 ・現代の暮らしに生かされているものの多さを改めて確認し、歴史が続いていることを実感する。 ・富国強兵が進み、国会が開設された後の日本について次の学習への意欲を高める。 	1
	<p>小単元全体のまとめ</p> <p>明治維新では、外国に負けないように日本の国を強くしたり、人々が平等になるように制度を改革したりして、様々な人たちが努力していた。</p>	

7 市教研社会科研究主題解明のための方策

「みえる わかる・・・いかす」

よりよい社会の形成に参画する力を育てる社会科学学習

本年度主題解明のための方策（市教研社会科部会研究計画より）

- ① めざす子どもの姿、習得すべき概念、身に付けさせたい力の明確化
- ② 追及意欲を高め、社会認識が深まり、参画への意識が育つ教材の開発
- ③ 主体的に学び、参画への学習意欲が高まる学習過程の工夫（問題解決的な学習の充実）
- ④ 社会認識の深まりや社会に参画する力を見取る評価の工夫

本単元では、研究主題の中から次の点に留意して指導および評価に取り組んでいきたい。

- ② 追及意欲を高め、社会認識が深まり、参画への意識が育つ教材の開発

〈NIE 教育と時事の活用〉

一般的に、歴史を学ぶ児童は、関心がある程度もつことはできるが、その関心を深める要因は、「面白い物語」としてであって、一般的な漫画やアニメ、絵本や小説と同じ感覚でとらえていると考える。つまり、児童の歴史に対する考えは、「自分とは別のこと」である。

確かに、歴史に興味をもつ理由として決して悪いことではないかもしれないが、最終的に知識だけで終わり、自分の生活への還元がなくなってしまうことも考えられる。

そこで、歴史と現在と児童を結びつける教材として、新聞を取り入れたい。授業と直接結びつくものが毎日あるわけではないが、毎日何かのニュースを掲示し続けることで、まずは新聞を身近なものとして慣れさせる。そして、学習にかかわる事項を見つけた時には、児童に紹介して、歴史を身近なものとして認識させたい。

また、最近世界遺産に登録された富岡製糸場を新聞記事で読ませることも、手立ての一つとしたい。そして、今後、昭和史に入り、戦争を学習していく中で、新聞を自然と手にして世の中に対して自分の意見を持たせていきたい。

- ④ 社会認識の深まりや社会に参画する力を見取る評価の工夫

〈「学習問題→まとめ」だけでなく、+感想の記述〉

地理、歴史、公民と大きく社会科学習を分けてみると、現代史を除く歴史学習では、社会参画する意欲や力を高めることは、他の2分野より難しいと感じる。

しかし、現代の生活と比較することによって、社会参画する力を育成することもできるはずである。例えば、縄文時代や弥生時代と現在では、衣食住のすべての面で全く違っている。そこから今の自分の生活の便利さを感じたり、当時の協力し合う生活を知ったりすることが、社会認識の深まりや社会参画の力を養うことにつながるだろう。また、歴史上の人物の生き方も自分の生き方の参考にできるはずである。

それらを見取る手立てや評価として、本学級では今までの歴史学習を通して、学習問題に対するまとめだけでなく、感想を書かせている。また、感想を書くときに、「今の自分（生活）から振り返るとどう思うか。」という声かけをしている。そこから、児童の社会認識の深まりや社会に参画する力を見取ることができると考え、実施しているので、本単元でも行っていきたい。

8 本時の指導 (5 / 9)

(1) 本時の目標

- 明治政府や民衆の思いをまとめ、歴史事象と自分の生活が結びついていることを実感している。 (関心・意欲・態度)
- 大久保利通らが、富国強兵を進めるために、国の財政を安定させようとしたことを考え、表現できる。 (思考・判断・表現)
- 人物の願いや働きについて、必要な資料を使って調べている。 (技能)
- 明治の諸改革を、相互に関連づけて考え、理解できる。 (知識・理解)

(2) 本時の展開 (3時間展開)

時配	学習活動と内容	○教師の支援 ◆評価の観点	資料
3	1 前回までの学習内容を確認し、学習問題を立てる。	○学習問題を児童から出るように、本時につながりそうな前回の感想を児童に読ませる。	
大久保利通たちは、どのような国づくりを目指して、どのような政策を進めたのだろうか。			
6	2 どのような国を目指し、政策を考えたか予想し、話し合う。 ・「平等な国をつくったほうが良いよ。」 ・「よくわからないな。」 ・「外国を参考にしたら良いんじゃないかな。」	○様々な意見が出るように、個人で予想させてから、4人グループで話し合わせる。 ○歴史の流れに順ずるために、諸政策の中で廃藩置県は説明し、地租改正などは、後に回す。	テレビ 廃藩置県の様子 の図
4	3 岩倉使節団が外国へ向かった様子を見る。 ・「天皇がいるみたい。」 ・「女の人もあるよ。」	○全員が同じ視点で考えられるように、デジタル教科書を使って示す。 ○岩倉使節団の中には、留学生として、津田梅子がいたことも伝える。	デジタル教科書
20	4 自分たちの意見を発表して、明治政府の諸政策を理解する。 ・「たくさん工場をつくって、製品を外国に売ろうよ。」 ・「このときに富岡製糸場が作られたんだね。今もあるなら行きたいな。」 →殖産興業 ・「日本を強くしなくちゃ。」 →徴兵令	○工場を作ることにに対して意見が出なければ、岩倉使節団の様子を提示する。 ○富岡製糸場について、デジタル教科書を使って説明し、新聞記事を見せて現在とつなげ、関心を高める。 ○児童がイメージしやすいように、徴兵令や地租改正の様子をデジタル教科書で提示する。	図録米欧回覧実記 富岡製糸場の新聞記事 デジタル教科書

<p>10</p> <p>2</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「お金がたくさん必要そうだね。」 →地租改正 ・「日本を強くするためとは言っても、軍隊は嫌だな。」 ・「税金が必ず取られるのも嫌だな。」 ・「今の日本の発展につながっている部分が多いね。」 <p>5 政府側と国民側の思いを確認し、感想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「国を強くするために必要な政策だったんだね。」 ・「国民は大変だったね。」 <p>6 次時からの学習を見通す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「殖産興業の役割って今に通じるね。」 ・「でも、お金がないといけないよね。」 ・「徴兵令の役割って本当に必要だったのかな。」 ・「もっと詳しく調べて発表し合おう。」 	<p>○政府だけでなく、国民の目線でも考えられるように、徴兵令や納税が負担となったことも考えさせる。</p> <p>◆明治の諸改革を、相互に関連づけて考え、理解している。 【知識・理解】</p> <p>○学習後の考え方の変容を把握するために、ここまでの感想を書かせる。</p> <p>○どの政策が特に大きな役割を果たしたのか討論する流れを作る。</p> <p>○ディベートではなく、パネルディスカッションのように考えを深めることを確認し、今後の学習の見通しとする。</p>	
----- 以降、2時間目 -----			
<p>45</p>	<p>1 前時を振り返り、明治政府の政策グループに分かれ、それぞれ当時の様子を調べながら、思いをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4人1グループで調べながら考えをまとめる。 ・地租改正グループ 「今の税金より大変そうだね。でもその分、発展できるね。良いのかな。」 ・殖産興業グループ 「国がお金を出してくれるから、どんどん生産できるね。今の日本の発展に通じるね。」 ・徴兵令グループ 「弱い日本から抜け出せるけど、自分が国民だったらどう思うかな。」 	<p>○立場を偏らせないために、「地租改正」「殖産興業」「徴兵令」の3つにグループを分ける。</p> <p>○インターネットや資料集を使わせて、様々な意見が出るようにする。</p> <p>○現在の自分の生活や時事ニュースからも、当時の大変な思いを考えられるように、新聞を活用する。</p> <p>○長所と短所の両方に気付けるように、声をかけ、広い視点で考えさせる。</p> <p>◆人物の願いや働きについて、必要な資料を使って調べている。 【技能】</p>	<p>資料集 学習百科事典サイト 日本工業新聞の記事 など</p>

----- 以降、3時間目（本時） -----			
5	1 前時までを振り返る。	○ディスカッションの目的を忘れないために、学習問題を確認する。	
17	2 グループでまとめたことを、発表し、ディスカッションを行う。 ㊦「この新聞を見てください。現在の生活が豊かになっているのは、明治時代の殖産興業のおかげです。」 ㊧「国民は嫌がらなかったのかな。地租改正は随分負担みたいでした。」 ㊨「強い日本のためには、多少の負担は仕方ないよ。だから徴兵したんだ。」 ㊩「言われてみれば、…」	○通常の討論会と違って、勝敗をつけるわけではなく、考えを深めるためであることを確認する。 ○ディスカッションの形式は、「地租改正」「殖産興業」「徴兵令」から1グループずつ合わせ、立場が違う3グループでディスカッションさせる。 ○ディスカッションを振り返られるように、付箋に主な意見を書いてホワイトボードに貼っておく。	資料集 学習百科事典サイト 日本工業新聞の記事 など ホワイトボード マーカー 付箋
8	3 ディスカッションをまとめる。 ㊰「明治政府の政策は素晴らしく、今の日本を作りあげているということ みんな一致しました。」 ㊱「国民負担には、賛否両論でした。」 ㊲「それぞれの立場の思いはあるけれど、このようなことがあったから今の日本があるんだね。」	○全員が理解できるように、ディスカッションの流れを残したホワイトボードをOHCで映す。 ○次時につなげるため、政府の政策によって、文化が進むことを確認する。 ○当時は、討議ができない世の中であることも伝え、自由民権運動へつなげられるようにする。	OHC ホワイトボード
10	4 本時をまとめ、感想を書く。	○児童の理解を確かめるために、自分でまとめを書くように指示する。 ◆大久保利通らが、富国強兵を進めるために、国の財政を安定させようとしたことを考え、表現している。【思考・判断・表現】	
3	5 本時をまとめて、感想を発表する。 ・「明治政府は、富国強兵を目指して、様々な政策を行った。」 ・「必ず兵隊に行かなければいけないのは嫌だ。今の世の中は恵まれている。」	○歴史と現在をつなげて関心を深めるため、今の生活とも比較させる。 ◆明治政府や民衆の思いをまとめ、歴史事象と自分の生活が結びついていることを実感している。【関心・意欲・態度】	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 大久保利通たちは、富国強兵の国づくりを目指して、殖産興業を進めたり、地租改正や徴兵令を行ったりした。 </div>			
2	6 次時の学習の見通しをもつ。 ・「人々の暮らしはどうなったのかな。」	○児童主体とするため、児童の感想から、次時の学習内容を取り上げる。	

